
アライグマの捕食被害を受けたと思われる作田川のクサガメ

小賀野大一

290-0151 千葉県市原市瀬又962-40 千葉県野生生物研究会

A record of injured *Mauremys reevesii* suspected to have been attacked by *Procyon lotor* in Sakuta River, Chiba Prefecture Japan.

By Daiichi OGANO

Chiba Wildlife Research Society, 962-40 Semata, Ichihara-shi, Chiba 209-0151, Japan.

作田川は、千葉県北部の下総台地から九十九里浜平野を経て太平洋に注ぐ流路20.7kmの小河川である。この河川の上流域(図1)では、2011年より淡水性カメ類の調査を実施しているが、ニホンイシガメ *Mauremys japonica*(以下イシガメ)が1個体、クサガメ *Mauremys reevesii*が78個体、イシガメとクサガメの雑種が7個体確認されている。なお、外来種のミシシippアカミガメ *Trachemys scripta elegans*の侵入は確認されておらず、クサガメが優占している地域といえる。



図1. 作田川上流の調査地—河川の周囲は主に水田として利用されている

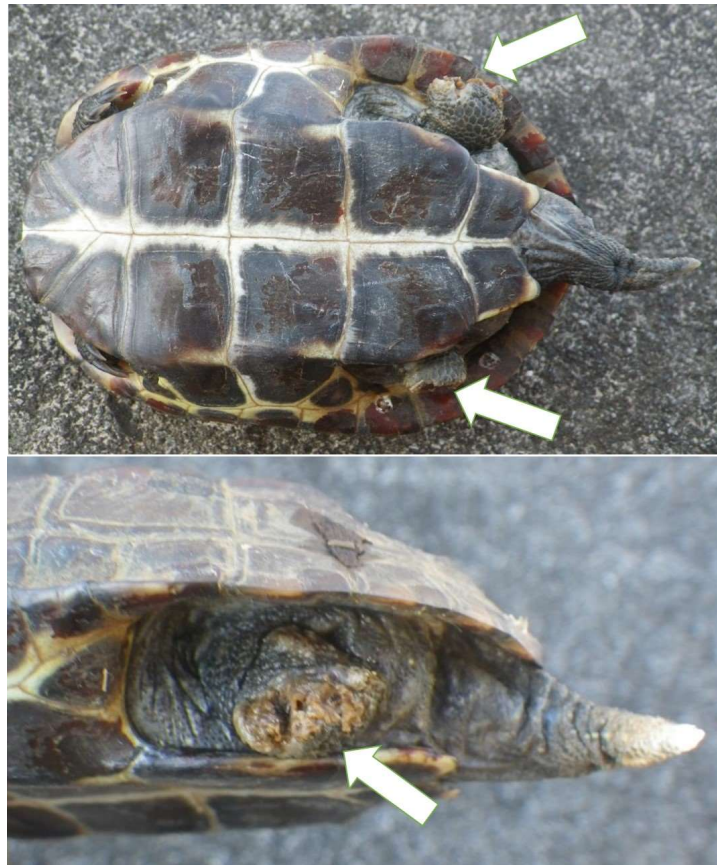


図2. アライグマの捕食被害を受けたと思われるクサガメ両後肢が咬みちぎられていて、草刈り機などによる機械的な切断面とは明らかに異なっている。

これまでの個体群調査では、アライグマ被害の特徴の1つとされる四肢欠損個体は発見されていなかったが、2019年1月5日に初めてアライグマによるものと思われる被害を確認したので報告する。被害を受けた個体は背甲長73.6mm、体重58g、3歳のクサガメの雄個体で、両後肢がほぼ元から欠損していた(図2)。この個体は当日の調査で初めて捕獲された個体で過去の健全な時期の捕獲記録が無かったが、後肢の切断面には出血はなく被害を受けてからしばらく時間が経過しているものと思われた。

今回、イシガメの記録がほとんど無い北総地域の作田川流域で、アライグマによると思われるクサガメへの捕食被害が確認されたことになる。千葉県南部では複数地点でアライグマによるカメ類への捕食被害が報告されているが(小賀野他, 2015; 小菅・小林, 2015など)、アライグマの分布拡大に伴いその被害は県北部の淡水性カメ類にまで及んできている可能性が示された。

今後、アライグマが北総地域の水田地帯に比較的高密度に生息するクサガメを利用可能な餌資源として認識することで、アライグマの増加や分布拡大に拍車がかかることが懸念される。

引用文献

- 小菅康弘・小林頼太. 2015. アライグマによる淡水カメ類の危機 (特集 日本における淡水カメ類の保全と管理). 爬虫両棲類学会報 2015(2): 167-173.
- 小賀野大一・吉野英雄・八木幸市・田中一行・笠原孝夫. 2015. 房総半島の溜池に生息するニホンイシガメの危機的状況. 爬虫両棲類学会報2015(1): 1-8.